



3day KUMANO 最終ステージ優勝の三船、右端が総合優勝の野寺

シクリスムエコーNo.118 2005年4・5月号

平成17年度事業計画	2
(財)日本自転車競技連盟 新役員の紹介	4
会長就任のあいさつ / 平成17年度専門委員会の構成 ..	5
(財)日本自転車競技連盟評議員名簿 / ACC新役員名簿 ..	5



第30回チャレンジサイクルロードレース大会	6
-----------------------------	---



2005トラック世界選手権自転車競技大会	8
----------------------------	---



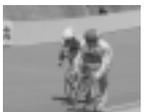
平成16年度全国高等学校選抜自転車競技大会	10
-----------------------------	----



第7回 3DAY CYCLE ROAD 熊野	12
------------------------------	----



トラックナショナルチーム・強化指定選手の再編成 ..	13
第6回チャレンジ・ザ・オリンピック実施要領	13
第5回全日本実業団トラック記録会	14



競技大会結果	15
加盟団体事務局の変更	16
JCF維持会員のお願い	16
財団法人日本自転車競技連盟10周年記念祝賀会	16
連盟事務局の人事異動について	16
連盟の動き	16



平成17年度事業計画

財団法人 日本自転車競技連盟

方針

事業計画概要

連盟創立11年目を迎えた。平成17年度も厳しい年になるであろう。創立10周年記念行事「あゆみ」の発刊もした。アマ車連創立70周年、プロ車連創立48周年、先人が開拓した、努力した、その結果が芽になり蕾になり、4年後の北京オリンピックでは、大輪の花が咲く「日本バンザイ」と叫びたい。

アテネオリンピックでは、トラック競技チームスプリントで銀メダルを獲得した。さあ次は金だ。ロード、トラック、MTBそして北京からBMXも加わった。若い逸材は多くいる。北京に向けて選手強化対策を積極的にすべく、指導体制を整え邁進すべきである。

今、どのスポーツも底辺の拡大に力を入れている。少子化が顕著な現在、自転車競技が如何に魅力ある競技であるかを組織を最大限に活用してアピールすべきである。スポーツを趣味でやるのも結構。だが野球にしるサッカーにしる、華やかなプロフェッショナルが存在する競技が若者の心を刺激する。メディアの力は強い。普及広報活動はどんどんやらなければ置いていかれる。

昨年も書いたが、ここ数年、短期、中期、長期のガイドラインを発表してきた。基本論としての運営財源の確保、事業の整備統廃合、事務の合理化と効率化、思っているようで進まない。

運営財源については、財政部会よりレポートが総務委員会に提出され、常務理事会にも図った。公益補助金に依存する体質の改善といっても現状認識が役員、登録選手、職員それぞれ違う。バブル時代の後遺症は新聞で騒がれているように終焉を迎えつつあるように思う。

世の移り変わりは早い。時代の変化に遅れを取ることなく、そして先人が残したどんな時代になっても変えてはならない育まれた心情を見極めて運営しなければならない。

スポーツ選手は、諦めないことが勝利につながる。途中で断念したり、先に諦めた者に勝利は無い。わが連盟もこの厳しい時代をスポーツ精神に則り、下記事業を推進する所存である。

〔総務部〕

平成17年度の公益補助金は対前年で約5千万円もの減額があり、平成11年か

らの通期で見るとほぼ半減化してしまった。これに替わる財源の確保については残念ながらもまだ見るべきものがない。業務の執行面においても過去の補助金依存体質からの脱却はまだその緒にもついていない。加えて事務局スタッフにおける人員減によりマンパワーの低下が懸念され、今後の連盟の運営に暗い影を投げかけている。

昨年はアテネオリンピックにおける銀メダルの獲得と連盟創立10周年という明るい話題もあったが資金及び人員減という連盟運営の環境悪化を乗り越える施策、体制作りが急がれる。かかる情勢に対応すべく総務委員会においては平成15、16年度において財政部会を設置し主として財政問題の解決に向けての検討を行ってきた。17年度事業の執行にあたってはこの財政部会の意見を踏まえつつ新執行体制の基、自転車競技の将来展望を軸にした長期的事業計画の策定に努める。

〔業務部〕

少子化、スポーツ離れ等、とりまく環境の悪化は急速に進んでいる。その危機感を認識し部門、組織を超えた連携が緊急の課題である。

だれもが楽しく参加できる環境の整備による低年齢層の開発、トップへの明確な道筋、そして参加者、観客に感動を与える大会、種目の改革は、部門、組織を超えた協力体制の構築により実現する。それにより普及と強化が両輪として稼動し、競技の活性化にも繋がる。

〔選手強化部〕

アテネオリンピック後に新たに編成されたナショナルチーム、強化指定選手を中心に、トラック、ロードともにより一層の選手強化を図る。トラック競技においては、ジュニア世界選手権大会、アジア選手権大会、ワールドカップ等に選手を派遣し、特にワールドカップにおいては2006世界選手権の出場枠の獲得に努める。また、ロード競技においては女子、アンダー23、ジュニアはもちろんのこと、2005年1月からUCIルール改革に伴い、男子ロードナショナルチームを編成し、確固たる地位を得るため8月までアジアそしてヨーロッパでのレースに積極的に参戦し、9月の世界選手権大会に向けて出場枠が獲得できるよう努める。

〔国際事業推進室〕

スポーツ団体の将来を考えると、国際化は重要なテーマである。国内外における国際的事業推進において地勢的な条件が障壁となるものはもちろんであるが、通信手段の発達した現在においては言語における障壁を低くすることが重要である。このために、外国語に精通した者を各方面で登用していくことと、諸文書を日本人と外国人が相互に理解できる形にすることなどが重要であろう。

また、日本の競技者が国際的に活躍するための基盤として、国内諸制度を国際的制度和整合化し、競技者や審判、コーチなどのための支援体制を整備していくことも重要である。

上記のことを踏まえて、国際事業推進室は、本連盟諸事業の場において、人材の発掘/養成/登用、資料/文書の2ヶ国語(日本語・英語)化、国内外の情報の収集、対外(国内外)的な情報の蓄積および公開、そしてこれらのための事務局内での情報の共有化および事務局整備を推進する。そして、これらの円滑な推進のため、関係者/団体との良好で緊密な協力関係を涵養すべく活動する。

以上が本年度の事業計画の方針及び概要であるが実施事業については以下のとおりである。

実施事業

1 国内競技大会関係事業

次の主要大会は担当専門委員会において実施要項を作成し適切な大会運営を図り自転車競技の啓発普及及び競技者審判員の技術の向上に資するものである。

- ①全日本自転車競技選手権大会
- ②その他国内大会

2 国内での国際競技大会事業

ジャパンカップロードレース大会

3 国際競技大会関係事業

世界選手権大会、ワールドカップ大会等の国際大会に日本代表選手団を派遣する。またUCI等国際機関の会議に参画し国際情勢を的確に把握する。国際審判員等を諸外国へ派遣し高度な理論及び技術の習得を行うとともに積極的な国際交流を図る。

- ①世界選手権自転車競技大会(種目別)選手派遣

- ②アジア自転車競技選手権(トラック、ロード、MTB)大会選手派遣
- ③ワールドカップ等国際大会選手派遣
- ④2005年国際グランプリケイリン選手派遣
- ⑤ACCTトラックアジアカップ大会の選手派遣
- ⑥国際会議への派遣
- ⑦国際審判員の派遣
- ⑧外国自転車競技関係者の招聘

4 加盟団体関係事業

加盟団体が実施する事業が自転車競技の啓発普及及び競技者、審判員の技術の向上を図るうえからも円滑に運営できるように支援するものである。

(1) 都道府県連盟関連事業

- ①全国地域別道路競走大会(8地域)
- ②全国地域別トラックレース大会(8地域)
- ③全国都道府県別自転車競技選手権大会(47都道府県)

(2) 日本プロフェッショナルサイクリスト協会関連事業

- ①全日本プロフェッショナル自転車競技選手権大会
- ②全国地区別プロフェッショナル自転車競技選手権大会
- ③プロサイクリスト強化事業他

(3) 全国高等学校体育連盟自転車競技専門部関連事業

- ①全国高等学校選抜自転車競技大会(トラック、ロード)
- ②全国高等学校自転車競技合宿

(4) 日本学生自転車競技連盟関連事業

- ①全日本大学対抗選手権自転車競技大会
- ②全日本学生選手権自転車競技大会(トラック、ロード、チームロード)

(5) 全日本実業団自転車競技連盟関連事業

- ①全日本実業団対抗サイクルロードレース大会
- ②全日本実業団自転車競技選手権大会
- ③東西地域別実業団ロードレース大会他

5 アンチドーピングの推進事業

国内全日本大会クラス実施

6 強化・普及事業

強化指定選手については、国際大会で十分好成績が収められるよう、さらに選手の強化・育成に努める。また次代を担う選手に対しては国内外の競技大会に派遣し世界に通用する選手の育成に努める。

さらに自転車競技者の拡大及び競技大会への参加者増加を図るべく自転車界に限らず広い範囲において競技情報の提供を行い普及事業を展開する。併せて全国各地より選手を一同に集め優秀な人材発掘を目的としたチャレンジ・ザ・オリンピック等の実施・支援を行う。

- (1) 選手強化訓練事業
- (2) 全国自転車競技指導担当者研修会・審判講習会
- (3) 自転車競技の普及・広報事業
- (4) ケイリン種目普及指導事業
- (5) 機関誌発行事業
- (6) チャレンジ・サイクル・ロードレース大会

7 調査研究事業

だれもが気軽に参加できる環境を構築することにより、競技の普及、発展に繋がる方策を研究する。

また国際自転車競技連合(UCI)に係わる情報の収集及び諸外国の実状を分析・検討し国際的な水準に合致するよう競技環境の整備方法等を研究する。

- (1) 国内競技大会に関する研究
- (2) 国際競技における制度等に関する調査研究
- (3) 選手強化等に関する調査研究
- (4) 登録システムの整備

共催事業の実施

関係支援団体と共にロードレースの開催を通して我が国における自転車競技の啓発及び健全なる国民生活の向上を図りもって体育文化の発展に寄与するものである。

- (1) ツアー・オブ・ジャパン(自転車月間推進協議会他)
- (2) ツール・ド・おきなわ(NPO法人ツール・ド・おきなわ協会)
- (3) ツール・ド・北海道((財)ツール・ド・北海道協会)
- (4) ツール・ド・とうほく((財)河北文化事業団)
- (5) 3 DAY CYCLE ROAD熊野(3DAY ROAD熊野実行委員会)
- (6) シマノ鈴鹿国際ロードレース大会((株)シマノ)

収支予算書総括表

(単位：円)

科目	合計	一般会計	日本体育協会補助事業特別会計	国際競技力向上事業特別会計	おびっくキャンペーン事業特別会計	日本自転車振興会公益補助事業特別会計	スポーツ振興基金事業特別会計
I. 収入の部							
基本財産運用収入	50,000	50,000	0	0	0	0	0
ツール・ド・北海道免税募金交付金収入	22,000,000	22,000,000	0	0	0	0	0
会費収入	21,000,000	21,000,000	0	0	0	0	0
事業収入	470,758,000	9,900,000	0	0	0	460,858,000	0
補助金等収入	114,219,000	85,350,000	4,629,000	7,578,000	3,200,000	4,390,000	9,072,000
負担金収入	9,139,000	4,850,000	0	3,789,000	0	0	500,000
寄付金収入	1,000,000	1,000,000	0	0	0	0	0
雑収入	1,554,000	1,550,000	2,000	1,000	1,000	0	0
繰入金収入	8,547,000	0	0	0	0	3,191,000	5,356,000
当期収入合計	648,267,000	145,700,000	4,631,000	11,368,000	3,201,000	468,439,000	14,928,000
前期繰越収支差額	87,244,611	53,407,502	3,672,945	5,302,269	24,861,895	0	0
収入合計	735,511,611	199,107,502	8,303,945	16,670,269	28,062,895	468,439,000	14,928,000
II. 支出の部							
事業費	565,967,000	63,400,000	4,631,000	11,368,000	3,201,000	468,439,000	14,928,000
ツール・ド・北海道免税募金交付金支出	22,000,000	22,000,000	0	0	0	0	0
管理費	51,400,000	51,400,000	0	0	0	0	0
特定預金支出	3,900,000	3,900,000	0	0	0	0	0
繰入金支出	4,000,000	4,000,000	0	0	0	0	0
予備費	1,000,000	1,000,000	0	0	0	0	0
当期支出合計	648,267,000	145,700,000	4,631,000	11,368,000	3,201,000	468,439,000	14,928,000
当期収支差額	0	0	0	0	0	0	0
次期繰越収支差額	87,244,611	53,407,502	3,672,945	5,302,269	24,861,895	0	0

(財)日本自転車競技連盟 新役員の紹介



会 長 岩 橋 昭一(63)
日本プロサイクリスト協会



副会長 鈴木 孝幸(61)
日本プロサイクリスト協会



副会長 村田 統司(65)
日本学生自転車競技連盟



常務理事 穴田 勝彦(65)
日本プロサイクリスト協会



常務理事 岡田 行雄(58)
鳥取県自転車競技連盟



常務理事 加藤 昭(62)
全日本実業団自転車競技連盟



常務理事 中村 義行(61)
日本プロサイクリスト協会(学経)



常務理事 藤本 清孝(57)
兵庫県自転車競技連盟(学経)



理 事 井 関 康正(64)
日本学生自転車競技連盟



理 事 市 川 孝雄(65)
日本プロサイクリスト協会(学経)



理 事 大 島 研一(59)
栃木県自転車競技連盟



理 事 奥 田 悦司(56)
大阪府自転車競技連盟



理 事 熊 谷 丞佑(64)
日本プロサイクリスト協会(学経)



理 事 中 西 泰三(63)
徳島県自転車競技連盟



理 事 中 原 曙観(60)
熊本県自転車競技連盟



理 事 萩 原 重一(54)
茨城県自転車競技連盟



理 事 村 井 武治(64)
青森県自転車競技連盟



理 事 山 口 清孝(57)
石川県自転車競技連盟



理 事 山 口 秀雄(52)
全国高体連自転車競技部



理 事 大 和 孝義(55)
日本プロサイクリスト協会



監 事 林 辰夫(52)
大阪府自転車競技連盟



監 事 松 尾 嘉之輔(50)
日本プロサイクリスト協会



顧 問 内 村 俊一(70)



顧 問 杉 原 鏑一(75)



顧 問 岡 本 雄作(70)



参 与 亀 田 博文(74)



参 与 鈴 木 久雄(71)

(内は4月1日現在の年齢。順不同。)

会長就任のあいさつ



財団法人 日本自転車競技連盟
会長 岩 楯 昭 一

平成17年3月28日に開催されました本連盟評議員会にて役員改選の結果、引き続き第六期の会長に就任いたすことになりました。

本連盟は、平成7年に発足しアマ、プロが一体となり日本の自転車競技界を統括する団体として創立10年を迎え、発展に努めてまいりました。

昨年度は2004年アテネオリンピックにて自転車競技界初の銀メダルを獲得いたしました。これも一重に皆様方のご支援の賜物と感謝いたしております。また2008年北京オリンピックでは更に選手強化を図り、皆様のご期待に添えますよう頑張る所存です。

つきましては、関係各位皆様の自転車競技への一層のご理解とご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 17・18 年度 専門委員会の構成について

- [総務委員会] 委員長 鈴木 孝幸 委員 井関 康正・中西 泰三・山口 秀雄
 [選手強化委員会] 委員長 穴田 勝彦 委員 大島 研一・中原 曙観・山口 清孝・大和 孝義
 [競技運営委員会] 委員長 岡田 行雄 委員 奥田 悦司・萩原 重一
 [広報委員会] 委員長 加藤 昭 委員 熊谷 丞佑・村井 武治
 [アンチドーピング委員会] 委員長 中村 義行 委員 市川 孝雄・塚越 勝己・新津谷真人

平成17・18年度(財)日本自転車競技連盟 評議員名簿

高村 敦(北海道)・久保 義春(青森県)・主濱 春蔵(岩手県)・星 進一(宮城県)・山田 義輝(秋田県)
 小口 謙三(山形県)・鎌田 弘史(福島県)・大月 伸生(茨城県)・渡邊 知明(栃木県)・内山 昭二(群馬県)
 渡邊 淳(埼玉県)・廣瀬 來(千葉県)・横尾 明(東京都)・落合 健志(神奈川県)・三沢 一章(山梨県)
 中林 修(新潟県)・斎藤 博(長野県)・大橋 勲(富山県)・坂本 喜彦(石川県)・竹沢 義忠(福井県)
 伊熊 勇夫(静岡県)・酒井 忠雄(愛知県)・佐久間重光(三重県)・國枝 一成(岐阜県)・小西 良章(滋賀県)
 熊本 彰廣(京都府)・程原 邦夫(大阪府)・遠藤 恒司(兵庫県)・藤谷 昇(奈良県)・上野 孝(和歌山県)
 岡田 慎二(鳥取県)・久野 志延(島根県)・近藤 忠彦(岡山県)・川手 一則(広島県)・森中 康行(山口県)
 寒川 英樹(香川県)・久保 徹(徳島県)・芳之内保彦(愛媛県)・久家 修(高知県)・高山 順(福岡県)
 佐々木昭彦(佐賀県)・永田 学(長崎県)・松本 秀憲(熊本県)・高野 晃(大分県)・下村 守(宮崎県)
 黒川 剛(鹿児島県)・末吉 敦(沖縄県)・川崎 寿男(実業団)・山上 義明(学連)・川上 等(高体連)
 佐久間信司郎・成田 昇・富原 忠夫(以上JPCA)・妙中 義之・鷺田 紀夫(以上学識経験者)

Asian Cycling Confederation(ACC・アジア自転車競技連合) 新役員名簿

会 長: Cho, Hee Wook(Korea) 副会長: Li Xir(China), Sheikh Faisal Al-Qassim(UAE), Decha Hemkrasri(Thailand)
 事務局長兼会計担当理事: Choi, Boo Woong(Korea)
 理 事: 岩楯昭一(Japan), Seyed Hosein Hashemi(Iran), Yasser H.Abu-Azma(Saudi Arabia), Sheikh Khalid bin Hamad(Bahrain)
 協力理事: Haji Abu Samah Wahab(Malaysia), Nataly Litvinenko(Kazakhstan)

第30回チャレンジサイクルロードレース大会



西日本チャレンジに続いての優勝に喜ぶ野寺

A-Eのゴール野寺

30回の節目を迎えたチャレンジサイクルロードレースが4月3日、日本サイクルスポーツセンター5kmサーキットで行われた。

天気予報では悪天候が予想されたが、最終A-Eクラスの表彰式が終わるまで雨が降ることは無く、全国800人の選手が日頃の成果を遺憾なく発揮した。

注目のA-Eクラスでは、2週前の西日本チャレンジとまったく同じ、シマノ野寺・大内・廣瀬の1・2・3ゴールであった。



1周目A-Eの先頭集団



将来有望!! B-Cクラス



A-Fの先頭集団、先頭を引くのが2位の村中、覇者の真下は右から2人目



A-Jの集団を引くチャンピオン小野寺悠太



心臓破りの坂を独走するA-Mの覇者 渥美



A-Uのゴールスプリント、左から2位の辻、3位の中村、1位の後藤

[競技結果]

第30回チャレンジサイクルロードレース大会
(2005/4/3 静岡・日本CSC)

A-E (60km)

1	野寺 秀徳	JPCA	シノ	1:40:47.15
2	大内 薫	JPCA	シノ	1:41:43.49
3	廣瀬 佳正	JPCA	シノ	1:41:43.64
4	柿沼 章	栃木	ミヤズノ	1:41:43.72
5	綾部 勇成	神奈川	ミヤズノ	1:42:03.78
6	田中 光輝	愛知	愛三工業	1:42:34.22
7	阿部 良之	JPCA	シノ	1:42:55.80
8	秋田 謙	愛知	愛三工業	1:42:55.91
9	鈴木 雷太	長野	ブリヂストン	1:42:56.06
10	西谷 雅史	東京	オーベスタ	1:42:56.94

A-U (40km)

1	後藤 辰徳	岐阜	日本大学	1:08:01.97
2	辻 善光	京都	立命館大	1:08:02.00
3	中村 誠	石川	カリブス	1:08:02.22
4	島田 真琴	東京	法政大学	1:08:02.22
5	松村 光浩	和歌山	日本大学	1:08:04.66
6	佐藤 佑一	岩手	順天堂大	1:08:05.81
7	渡辺 将大	群馬	中央大学	1:08:05.86
8	飯野 嘉則	東京	東京電大	1:08:06.06
9	長 義幸	大阪	同志社大	1:08:06.43
10	石井 陽	京都	立命館大	1:08:06.69

A-J (40km)

1	小野寺悠太	福島	平工業高	1:09:55.54
2	湯浅 徹	千葉	京葉工高	1:09:57.74
3	竹ノ内 悠	京都	宇治高校	1:09:58.68
4	大園 健太	奈良	北大和高	1:09:59.10
5	石倉 龍二	和歌山	和歌山北	1:10:01.13
6	鶴川 大輝	香川	高松工芸	1:10:01.14
7	佐伯 翔	福島	平工業高	1:10:01.19
8	武田 和也	奈良	榛原高校	1:10:01.57
9	伊藤 雅和	神奈川	法政第二	1:10:01.89
10	片山 達夫	岡山	岡山工高	1:10:05.70

A-M (35km)

1	渥美 守弘	静岡	吉田機工	1:02:13.95
2	杉村 宗弘	長野	あづみの	1:03:16.56
3	松井 久	大阪	シノ	1:03:50.44
4	森下 繁	大阪	シノ	1:04:19.52
5	栗田 徳久	静岡	相川鉄工	1:04:36.72
6	野田 洋一	長野	スコーピング	1:06:59.42
7	黒川 隆之	神奈川	ミツ電機	1:07:23.93
8	大塚 剛	神奈川	キャノ販売	1:07:57.29
9	守屋 清国	静岡	消防本部	1:08:09.96
10	土子 誠二	神奈川	ワイデーター	1:08:25.52

A-F (20km)

1	真下 正美	神奈川	sy-Nak	40:16.44
2	村中恵美子	東京		40:26.21
3	山口 亮子	愛知	ダイヤル-ブリヂ	40:26.53
4	西 加南子	千葉	スミタバ 和P	41:02.70
5	齋藤 磨実	神奈川		41:29.69
6	小山美貴子	埼玉	東武スミタバ	41:38.80
7	小野山恵美	愛媛	C.S.ウヰアリ	41:56.88
8	岡野 尚美	静岡	NECアールティグ	42:32.09
9	戸井麻里子	埼玉	オーブテクノロジー	42:41.25
10	井上 玲美	東京	東海大菅生	43:34.25

2005トラック世界選手権自転車競技大会



ベロドローム・ADTイベントセンター

3月20日

アテネオリンピック終了後、トラック競技は大会スケジュールが変更され、ワールドカップ4戦は11月～翌年2月、世界選手権は3月に開催されることとなった。

11月モスクワの第1戦から、12月ロサンゼルス、1月マンチェスター、2月シドニーと4戦に参加し出場権を獲得した成田和也、及川裕奨、内田 慶、渡邊一成のJCFトラックチームは、大いなる希望と、チャレンジ精神、世界挑戦に対しての不安を胸に、世界選手権参加のため、3月20日午後5時20分、ロサンゼルスに向け飛び立った。

9時間のフライト後、現地時間20日9時50分ロサンゼルスに到着。器材をピックアップし荷物をトラックに積み込みベロドローム経由でホテルへ向う。チェックイン、昼食後2時間程仮眠を取りベロドロームへ。自転車を組立、体を慣すため、軽めのトレーニングを行った。夕食後は明日からのトレーニングに備え早めに休む。

ベロドローム・ADTイベントセンターはホーム・デポ・センター(総合運動公園)内にあり、一周250m、板張りで最大斜度45度。

3月21日

ゲーリー監督も到着し、トレーニングスケジュールに従いトレーニングを行う。渡邊以外の選手は12月のワール

ドカップを経験しベロドロームの特徴を掴んでいたため、スムーズにトレーニングに入ることが出来た。

3月22日

世界的な異常気象の影響からか、朝から雨が降って気温は上がりず寒い1日となった。

前日に比べ強度を上げたトレーニングを実施、レースに備え実戦を想定したチームスプリントのコンビネーショントレーニング等も行った。

3月23日

明日からのレースに備え、決戦車輪も使用し集中したトレーニングを実施。ライセンスチェック、監督会議、夕食後チームミーティング。

3月24日

従来、世界選は5日制で行われていたが、今大会から4日制となって競技スケジュールが大幅に変更された。

チームスプリント

成田和也、渡邊一成、及川裕奨
予選6位 46秒389

第1走、成田が18秒354で飛び出すと渡邊、及川は離れ気味で追走し、2周目ホームで追い付く。2番手渡邊13秒591、3番手及川14秒444のラップでゴール。1位イギリスとは2秒差の6位。

ポイントレース 内田 慶

ポイントレースは序盤から小刻みな逃げ争いが続くが決まらず、35周過ぎ内田を含む4名が集団から抜け出し1

ラップ、その後内田は得点を重ね3～4位でのレース展開となり、上位入賞の可能性も見えたが、残り35周前半戦の無理が影響して左足に痙攣を起こし我慢のレースとなるが、残り30周力尽きリタイヤ。

3月25日

4km個人追抜競走 内田 慶

予選 19位 4分47秒601

目標タイムを4分30秒に設定しスタートし、前半はペースも良かったが、前日の痙攣の影響もあって1kmを過ぎてペースダウンしタイムは伸びず。

ケイリン 渡邊一成

予選2組 7位

Wカップ・ケイリン経験した渡邊は1回戦、先行を主体とした作戦で臨む。

スタートは3番手、後位はエスケレイド、ボルガンの並となる。周回を重ねペーサー退避後、後位警戒も内をエスケレイドに突かれる・外併走のまま頑張るが力尽き7着となって、敗者復活戦に望みを繋ぐ。

敗者復活戦4組 3位

敗者復活戦は4組コミッセルの手違いで再レースとなる。

スタート後3番手、ペーサー退避後ラスト2周ホームから仕掛けバックから3コーナーにかけて先頭に立ち逃げ切りを図ったが、最終周ホームから仕掛けたボルガンに捲かれ、惜しくも3位で2回戦進出は出来なかったが、1戦毎にレース内容が良くなっており経験を積みれば今後が期待できる。

1kmタイムトライアル 及川裕奨

14位 1分05秒842

シドニーワールドカップで自己ベスト記録をマークし期待された。

1kmタイムトライアルは如何に早くトップスピードに乗せるか、スタートダッシュが記録アップのカギとなるが、及川は1周19秒470とスピードに乗れずその後のラップも14秒654、15秒364ラストは16秒354に落ち目標とした1分3秒台には届かなかった。

3月26日

スプリント 成田和也

予選12位 10秒714

ランキング1位となってリーダージャージでのレースも経験し、期待さ

チームスプリントのスタート



れて臨んだ大会だったが、トレーニング不足からか、前回ワールドカップ・ロサンゼルス大会でマークしたタイムから0.3秒遅く16位でぎりぎりの予選通過となった。

渡邊一成はウォームアップ中オランダの選手に追突され負傷し出走不能となる。

1/8決勝ヒート1

テオ・ボス 11秒266 成田

成田インスタート、徐々にペースを上げ先行逃げ切りを図るが、いつものようなスピードの切れ、粘り共に無く、ボスに交わされ上位での戦いに参戦できなかった。

今回の世界選手権を振り返ると、前橋での対策合宿を行い、大会に臨んだが、2泊3日程度の合宿で通用するほど世界は甘い物ではないという事を選手自身は痛切に感じ取った。長期的なビジョンを持っていかに計画的に強化を続けステップアップを図って行くかが鍵となる。

今回参加した選手達はやる気十分、年齢も若く、今後に向け大なる可能性を秘めている、ナショナルチームとして北京に向け定期的に継続して強化合宿を実施し、彼らの能力を最大限引き出す事が最重要となる。

今大会は98年のナショナルチーム発足以来チームを指導し、アテネでは念願のメダル獲得に貢献したゲーリー監督にとって最後の大会となった。

就任以来、従来行われていたトレーニング法を見直し、実施したトレーニ

ングは、運動生理学に則った科学的なもので我々にトレーニング革命とも言ふべき衝撃を与え、7年間の蓄積、苦勞が実を結びアテネでの成功に繋がった。チームスプリントの銀メダルを置き土産に、新たなチャレンジを試みるゲーリー監督には、新天地での益々の活躍を祈念したいと思います。

ゲーリー監督ありがとうございました。紙面を借り御礼申し上げます。

(班目 秀雄)



今大会で最後、ゲーリー監督

[競技結果]

2005トラック世界選手権自転車競技大会
(2005/3/24-27 アメロ・サント・ピエール)

男子1kmタイムトライアル

1	BOS Theo	NED	1:01.165
2	QUEALLY Jason	GBR	1:01.230
3	HOY Chris	GBR	1:02.262
14	及川 裕奨	JPN	1:05.842

男子スプリント

1	WOLFF René	GER	
2	BOURGAIN Michkaël	FAR	
3	DAJKA Jobie	AUS	
	成田 和也	JPN	1/8F敗退

男子4km個人追抜競走

1	BARTKO Robert	GER	4:27.732
2	ESCOBAR ROURE Sergi	ESP	4:29.930
3	HEIMANS Levi	NED	4:30.707
19	内田 慶	JPN	4:47.601

男子ケイリン

1	MULDER Teun	NED	
2	FORDE Barry	BAR	
3	KELLY Shane John	AUS	
	渡邊 一成	JPN	1回戦敗退

男子スクラッチ (15km)

1	RASMUSSEN Alex	DEN	
2	HENDERSON Gregory	NZL	
3	GILMORE Matthew	BEL	

男子ホムトレス (40km)

1	RYBIN Volodymyr	UKR	38 p
2	TAMOURIDIS Ioannis	GRE	36 p
3	LLANERAS ROSSELLO Juan	ESP	34 p
	内田 慶	JPN	DNF

男子マドイリ (50km)

1	GBR	0 p
2	NED	(-1) 22 p
3	BEL	(-1) 20 p

男子チームスプリント

1	GBR	44.379
2	NED	44.713
3	GER	44.790
6	日本 (成田・及川・渡邊)	46.389

男子4km団体追抜競走

1	GBR	4:05.619
2	NED	4:09.971
3	AUS	4:07.717

女子500mタイムトライアル

1	TSYLINSKAYA Natallia	BLR	34.738
2	MEARES Anna	AUS	34.752
3	HIJGENAAR Yvonne	NED	34.928

女子スプリント

1	PENDLETON Victoria	GBR	
2	ABASSOVA Tamilia	RUS	
3	MEARES Anna	AUS	

女子3km個人追抜競走

1	MACTIER Katie	AUS	3:38.720
2	BATES Katherine	AUS	3:42.848
3	THURIG Karin	SUI	3:45.490

女子ケイリン

1	SANCHEZ Clara	FRA	
2	FRISONI Elisa	ITA	
3	HIJGENAAR Yvonne	NED	

女子スクラッチ (10km)

1	SLYUSAREVA Olga	RUS	
2	BATES Katherine	AUS	
3	VYPYRAYLO Lyudmyla	UKR	

女子ホムトレス (25km)

1	CARRARA Vera	ITA	31 p
2	SLYUSAREVA Olga	RUS	29 p
3	BATES Katherine	AUS	21 p

ナショナルチーム監督ゲーリー・ウエスト氏(44歳)は、2005年3月31日付をもって辞任されました。ゲーリー氏は1998年4月に特別コーチとしてオーストラリアより来日。2002年にはJCFヘッドコーチに、2003年にはJCFチームマネージャーに就任し、アテネ五輪では銀メダルに導き貢献した。

平成16年度全国高等学校選抜自転車競技大会

高校生のトラックシーズン到来を告げる、「平成16年度全国高等学校選抜自転車競技大会」が鹿児島県にて開催された。トラックは全面改修を終えたばかりの鹿児島県根占自転車競技場、ロードは根占町・大根占町・田代町を周回する一般公道を使用しての特設ロードコースにて実施された。

1kmタイムトライアル

初日の荒天が嘘のように天候も回復し、南国の春らしい穏やかな天候の下、タイムトライアルが開始された。競技終盤まで目立った記録はなくシード選手の走りに期待がもたれた。14組HSスタートの柁原翔太(神奈川県:横浜②)が1分10秒030で暫定トップタイムを記録、続く最終15組の選手の記録に注目された。

BSスタートの片折亮太(埼玉県:鳩山②)が唯一9秒台の、1分9秒777を記録(優勝)した。HSスタートの我妻敏(福島県:学法石川②)は機材トラブルのため単独にて再スタートし、記録更新が期待されたが、結果1分10秒837で3位であった。大会初日までの荒天によりコンディションの調整が難しかった事も起因するが、まだまだこれからといった印象であった。

3km個人追抜競走

決勝は前半から積極的に飛ばし、1km過ぎから徐々にリードを広げた一ノ瀬匠(佐賀県:龍谷②)が3分47秒094で優勝した。対戦相手の川本琢也(岡山県:岡山工②)も中盤追い上げ、残り1km時点で1秒差まで追い上げたが一歩及ばず3分49秒742で2位、3位には、3・4位決定戦制した渡邊正光(福島県:平工②)が今大会最高タイムの3分44秒748で入賞した。

一ノ瀬は昨年の選抜も4位の悔しさを晴らし、全国大会初優勝を飾った。

スプリント

決勝は小原将通(大分県:別府商②)予選タイム11秒264と、森川大輔(岐阜県:岐阜第一②)予選タイム11秒466で行われた。予選タイムを見ると小原がやや有利と思われたが、結果は森川のストレート勝ちで初優勝を飾った。

3・4位決定戦は3回戦までもつれたが、松川高大(熊本県:九州学院①)が1年生ながら3位に入賞した。この種目、持ちタイムも重要であるが技術・戦術面がまだまだ不足しているように感じる。今回参加の選手もまだまだ荒削りであるため、今後のトレーニング次第

ではまだまだ伸びる印象を受けた。

ポイントレース

決勝は24km、全12回のポイント周回で争われた。レースは中盤まで決定的な逃げもなく経過し、残り1回のポイント周回を残した時点で、佐伯が17点で2ポイントリードで暫定トップ、市山と後半息を吹き返した篠原が15点で佐伯を追った。最終ポイントを前に優勝の行方はこの3名に絞られ、会場内も3選手の動きに注目した。スプリントを避け早めに動いて逃げたい佐伯、一方、市山は先頭集団を射程距離に置き、長距離選手らしからぬ鋭い追い込みで効率よく得点を積み重ねるタイプ。

最終スプリントの結果は、市山研(神奈川県:法政二②)が鋭い追い込みで1着通過し5点獲得し、逆転で優勝(得点20点)を飾った。最後集団に飲み込まれた佐伯翔(福島県:平工②)が2位(得点17点)、3位にはレース後半足を使いすぎた篠原力也(香川県:笠田②)が入賞した。

優勝した市山曰く「2点差とは知りませんでした...」と謙遜しながらも優勝を喜んだ。昨年の選抜ロードで3位にも入賞しており今後が期待できる選手である。更なる精進に期待したい。また、入賞ならなかったが、1年生ながら徹底的に逃げに徹した菱田(京都府:花園①)の走りも印象に残った。

ケイリン

2回戦で優勝候補の一角の安福(奈良県:榛原昇陽②)が転倒し決勝に進出できないなど波乱もあったが、昨年のインターハイ4位の紅谷(香川県:高松工芸②)や柁原(福岡県:久工大附②)、2回戦1周半先行し勝ち上がった竹下(熊本県:千原台②)など今年のシーズンをリードするであろうメンバーが揃った。

そのようなメンバーの中でも、予選から鋭いダッシュで無傷で勝ち上がった中野彰人(和歌山県:和歌山北②)の走りが際立っていた。決勝でもその走りを如何なく発揮し、2Cからまくって優勝(上がりタイム11秒54)した。決して体格的に恵まれ

ているようには見えないが、脚質を生かした走りで見え「強い」印象を受けた。2位には柁原由将(福岡県:久工大附②)、3位には伊藤拓人(静岡県:静岡北①)が入賞した。

スクラッチ

昨年まで実施のエリミネーションレースから変更された新種目「スクラッチ」も今大会は予選6km、決勝8kmで実施された。期待された展開であるが、全国大会で初めて実施されたこともあり、全選手「様子を伺っている様子」であった。

各選手相手の出方を伺いながら逃げを試みるも集団も敏感に反応し決定打にはならなかった。ラスト3周からレースが動き、最終的には最終スプリントを制した、一戸康宏(埼玉県:鳩山②)が優勝、2位は三好雄二(香川県:石田①)、3位には近藤洋基(岐阜県:岐阜第一②)で決勝の幕を閉じた。

現時点ではスプリンター有利であるが、道中の展開次第では逃げを得意とする中・長距離の選手にも十分に勝つチャンスがあると思われるため、8月のインターハイの走りに期待したい。

個人ロードレース

ロードは根占町、大根占町、田代町を通る一般公道を使用しての特設ロードコースにて実施された。あいにくの雨模様であったが選手の走りは積極的であった。レースはパレードスタート直後に湯浅(千葉県:京業工②)が飛び出し始まった。

レースも終盤に差し掛かった残り10km地点で、森田大介(和歌山県:和歌山北①)が単独で逃げを試みた。集団も牽制状態に入り成功するかに見えたが、最後の上りに入った所でメイン集団より竹之内悠(京都府:立命館宇治①)が単



男子スクラッチ決勝

独で追走し森田をパス、単独でゴールを目指した。

逃げが決まったかに見えたが、メイン集団が下り坂80km/hで竹之内を猛追し、ゴール手前で竹之内が捕まり、それを吸収する形で集団でゴールスプリントに入った。

結果、持ち前のスプリント力を遺憾なく発揮した市山研(神奈川:法政二②)がゴールスプリントを制し、今大会2度目の優勝を飾った。2位には3kmIP3位の渡邊正光(福島:平工②)が2種目の入賞、3位には大久保光次(宮城:東北②)が入賞した。

500mタイムトライアル

全選手単独スタートにて実施され、スタートの位置の有利不利はなかった。また、穏やかな天候でバンクコンディションも良好の中、出場22選手のタイムトライアルが始まった。

中盤まで平凡なタイムが続く中、16番目出走の福島麻実(熊本:千原台①)が40秒821を出し暫定トップ(結果2位)。さらに18番目出走の地元、川又千裕(鹿児島:南大隅①)が40秒171を出しトップを更新し会場が盛り上がった。

後半に昨年入賞の有力選手も控えており、シード選手の走りに注目されたが結果は振るわなかった。3位には昨年4位の河端あゆみ(鳥取:倉吉総産②)が入賞した。この種目、地元九州ブロックの1年生の活躍が目立った。

2km個人追抜競走

和田見里美(鳥取:倉吉東②)が2周を過ぎたあたりから徐々にリードを広げ、2分50秒442で優勝、昨年5位の雪辱を晴らした。和田見は予選から終始安定した走りでの他の選手の追従を許さなかった。対戦相手の岸本紗也加(熊本:千原台②)が2分55秒281で2位(昨年6位)、3・4位決定戦を制した井上玲美(東京:東海大菅生②)が2分58秒551で3位に入賞した。

個人ロードレース:女子

出場17名にて実施された。正式スタート後の上りより次々と選手が脱落し、先頭集団は7名となった。その1名が脱落し、残る6名で雨の中淡々とレースが経過した。

残り約5kmの最後の上りに差し掛かった地点でレースが動いた。井上、和田見が一気にペースアップし集団が分断された。最後の上りのトンネル内で地元の川又が脱落したように見えたが、トンネル後の下りで先行する2名に追いつき、優勝争いはこの3名に絞られた。

結果3名のゴールスプリントとなり、優勝は井上玲美(東京:東海大菅生②)、2位は2秒差で和田美里美(鳥取:倉吉東②)、3位には地元、川又千裕(鹿児島:南大隅①)が入賞した。地元の観客、運営スタッフの大きな拍手に迎えられ笑顔のゴールが印象的であった。

学校対抗

3種目で入賞を果たした福島県立平工業高等学校(監督:小松久勝)が20点で総合優勝、続いて2種目を制した埼玉県立鳩山高等学校18点、一人で2種目を制した市山の神奈川県法政大学第二高等学校が同じく18点で2位であった。地元九州ブロックは地の利を生かせず九州学院の7位が最高であった。

総括

選手監督、そして競技役員の方々には大会初日までの天候不順や停電のアクシデント等、何かとご迷惑をお掛けしました。地元競技役員をはじめ、鹿屋体育大学自転車競技部の方々にも臨機応変に対応して頂き本当にありがとうございました。

地元の連盟は勿論のこと、地元行政や関係諸機関のご理解とご協力により、大きなトラブルなく大会を終了する事ができました。紙面をお借りしまして、心から感謝申し上げます。

参加選手の皆さんもこの結果に満足することなく更なる努力と精進を重ね、次の目標に向かって頑張っていたきたいと思います。(中田 将次)

[競技結果]

平成16年度全国高等学校選抜自転車競技大会
トラック(2005/3/25-26 鹿児島・根占)
ロード(2005/3/27 鹿児島・南大隅地区)

男子1kmタイムトライアル

1	片折 亮太	埼玉	鳩山高校	1:09.777
2	柁原 翔太	神奈川	横浜高校	1:10.030
3	我妻 敏	福島	学法石川高	1:10.837
4	山崎 将幸	秋田	能代西高校	1:11.114
5	不破 将登	岐阜	岐南工業高	1:11.968
6	鶴川 大輝	香川	高松工芸高	1:12.194

男子ロード

1	森川 大輔	岐阜	岐阜第一高	
2	小原 将通	大分	別府商業高	
3	松川 高大	熊本	九州学院高	
4	京相 真人	千葉	千葉経大附	
5	阿部 力也	宮城	東北高校	
6	岡本 総	愛知	桜丘高校	

男子3km個人追抜競走

1	一ノ瀬 匠	佐賀	龍谷高校	3:47.094
2	川本 琢也	岡山	岡山工業高	3:49.742
3	渡邊 正光	福島	平工業高校	3:44.748
4	石田 正樹	青森	八戸工業高	3:50.811

5	土屋 壮登	埼玉	川越工業高	3:51.502
6	田崎 裕也	福島	学法石川高	3:51.710

男子ケイリン

1	中野 彰人	和歌山	和歌山北高	
2	橋原 由将	福岡	久工大附高	
3	伊藤 拓人	静岡	静岡北高校	
4	長井 優斗	東京	王子工業高	
5	寺崎 祐樹	熊本	九州学院高	
6	紅谷 晃二	香川	高松工芸高	

男子スプリント

1	一戸 康宏	埼玉	鳩山高校	1:23.489
2	三好 雄二	香川	石田高校	
3	近藤 洋基	岐阜	岐阜第一高	
4	小松 明良	愛知	桜丘高校	
5	須永 優太	福島	白河実業高	
6	加藤 昭宏	岐阜	岐南工業高	

男子ポイントレース

1	市山 研	神奈川	法政二高校	20 p
2	佐伯 翔	福島	平工業高校	17 p
3	篠原 力也	香川	笠田高校	15 p
4	石倉 龍二	和歌山	和歌山北高	12 p
5	鈴木 信啓	福島	白河高校	10 p
6	山本 崇史	富山	氷見高校	9 p

男子個人ロードレース(65.5km)

1	市山 研	神奈川	法政二高校	1:52:03
2	渡邊 正光	福島	平工業高校	1:52:04
3	大久保光次	宮城	東北高校	1:52:04
4	針谷大二郎	栃木	作新学院高	1:52:04
5	角 令央奈	兵庫	日生第三高	1:52:04
6	続谷 利次	東京	昭第一高	1:52:04
7	鶴川 大輝	香川	高松工芸高	1:52:04
8	木守 望	和歌山	紀北工業高	1:52:04
9	石倉 龍二	和歌山	和歌山北高	1:52:04
10	湯浅 徹	千葉	京葉工業高	1:52:04

学校対抗

1	平工業高校	福島	20 p
2	鳩山高校	埼玉	18 p
2	法政第二高校	神奈川	18 p

女子500mタイムトライアル

1	川又 千裕	鹿児島	南大隅高校	40.171
2	福島 麻実	熊本	千原台高校	40.821
3	河端あゆみ	鳥取	倉吉総産高	41.080
4	和田見里美	鳥取	倉吉東高校	41.202
5	細川 さき	岩手	盛岡農業高	41.359
6	岸本紗也加	熊本	千原台高校	41.698

女子2km個人追抜競走

1	和田見里美	鳥取	倉吉東高校	2:50.442
2	岸本紗也加	熊本	千原台高校	2:55.281
3	井上 玲美	東京	東海大菅生	2:58.551
4	河端あゆみ	鳥取	倉吉総産高	2:59.634
5	早坂ありさ	宮城	東北高校	3:05.677
6	福島 麻実	熊本	千原台高校	3:08.509

女子個人ロードレース(27.1km)

1	井上 玲美	東京	東海大菅生	58:53
2	和田見里美	鳥取	倉吉東高校	58:55
3	川又 千裕	鹿児島	南大隅高校	58:56
4	早坂ありさ	宮城	東北高校	59:17
5	河端あゆみ	鳥取	倉吉総産高	59:43
6	遠藤 愛佳	鳥取	倉吉総産高	59:53
7	岸本紗也加	熊本	千原台高校	1:03:02
8	小町しのぶ	香川	笠田高校	1:03:37
9	高橋 久恵	岩手	紫波総合高	1:03:47
10	上野 左智	大分	別府商業高	1:05:37



第7回 3DAY CYCLE ROAD 熊野



第1ステージbのスタート

第7回3DAY CYCLE ROAD熊野が4月22日から24日、奈良・三重・和歌山の3県にわたり、開催された。

今回は全日程天候に恵まれ、19チーム99名の選手でプロローグ+3ステージが争われた。

個人総合では、第2ステージで総合1位を奪った野寺(シマノ)が、プロローグ2位の廣瀬(愛三工業)に1秒差をつけチャンピオンジャージを死守した。

なお、第1・第3の2ステージを制覇したミヤタの三船は惜しくも14秒差の3位にとどまった。

第2ステージ山岳ポイントを先行する総合チャンピオン野寺



第3ステージ中盤の先頭グループ

[競技結果]

第7回 3DAY CYCLE ROAD 熊野 (4/22-24 奈良・三重・和歌山)

第1ステージ a 個人TT (2.9km)

(4/22 奈良・下北山跡・ツ公園周回コース)
1 盛 一大 愛知 愛三工業 3:45.79



2 廣瀬 敏 JPCA 愛三工業 3:51.09
3 岡崎 和也 JPCA ファイアードラゴン 3:51.96
4 三船 雅彦 JPCA ミヤマビル 3:54.30
5 広瀬 佳正 JPCA シルレーシング 3:55.46
6 大内 薫 JPCA シルレーシング 3:55.85
7 品川 真寛 京都 シルレーシング 3:56.35

8 三浦 恭資 奈良 村ノCCD 4:00.02
9 秋田 謙 愛知 愛三工業 4:00.24
10 田中 光輝 愛知 愛三工業 4:00.77

第1ステージ b (2.9km×30=87km)

(4/22 奈良・下北山跡・ツ公園周回コース)

1 三船 雅彦 JPCA ミヤマビル 2:05:12
2 綾部 勇成 神奈川 ミヤマビル 2:05:12
3 大内 薫 JPCA シルレーシング 2:05:12
4 小畑 郁 東京 なるしまフレンド 2:05:12
5 廣瀬 敏 JPCA 愛三工業 2:05:12
6 岡崎 和也 JPCA ファイアードラゴン 2:05:12
7 野寺 秀徳 JPCA シルレーシング 2:05:12
8 三浦 恭資 奈良 村ノCCD 2:05:12
9 河野 通明 京都 熊野ホッポ 2:05:12
10 田中 泰治 東京 YOU CAN 2:05:12

第2ステージ (117.8km)

(4/23 三重・熊野山岳コース)

1 野寺 秀徳 JPCA シルレーシング 3:09:22
2 阿部 良之 JPCA シルレーシング 3:09:26
3 廣瀬 敏 JPCA 愛三工業 3:09:30
4 小畑 郁 東京 なるしまフレンド 3:09:30
5 盛 一大 愛知 愛三工業 3:09:46
6 室井 佑介 愛知 YOU CAN 3:09:46
7 広瀬 佳正 JPCA シルレーシング 3:09:46
8 三船 雅彦 JPCA ミヤマビル 3:09:46
9 鈴木 謙一 静岡 YOU CAN 3:09:46
10 品川 真寛 京都 シルレーシング 3:09:46



第3ステージ (15.4km×7+18.0km=125.8km)

(4/24 和歌山・熊野川町赤木川清流コース)

1 三船 雅彦 JPCA ミヤマビル 2:43:18
2 廣瀬 敏 JPCA 愛三工業 2:43:18
3 野寺 秀徳 JPCA シルレーシング 2:43:18
4 綾部 勇成 神奈川 ミヤマビル 2:43:18
5 飯野 嘉則 東京 ミヤマビル 和P 2:43:18
6 米山 一輝 東京 ミヤマビル 和P 2:43:18
7 阿部 良之 JPCA シルレーシング 2:43:18
8 三浦 恭資 奈良 村ノCCD 2:43:18
9 河野 通明 京都 熊野ホッポ 2:43:18
10 品川 真寛 京都 シルレーシング 2:43:18

個人総合

1 野寺 秀徳 JPCA シルレーシング 8:01:42
2 廣瀬 敏 JPCA 愛三工業 8:01:43
3 三船 雅彦 JPCA ミヤマビル 8:01:56
4 盛 一大 愛知 愛三工業 8:02:00
5 阿部 良之 JPCA シルレーシング 8:02:04
6 小畑 郁 東京 なるしまフレンド 8:02:06
7 広瀬 佳正 JPCA シルレーシング 8:02:13
8 綾部 勇成 神奈川 ミヤマビル 8:02:15
9 中村 誠 石川 村ノCCD 8:02:21
10 広瀬 学 石川 村ノCCD 8:02:38

団体総合

1 シルレーシング 24:05:51
2 愛三工業レーシングチーム 24:07:27
3 ミヤマビル 24:08:50

2005年トラックナショナルチーム・強化指定選手の再編成に伴う選手選考について

2005年トラックナショナルチーム・強化指定選手の再編成については、原則として下記の基準により選考いたします。

- 1 2005年チャレンジ・ザ・オリンピックにおいて基準タイムを更新した者を選考する。
- 2 2005年全日本選手権大会を始め、各大会において基準タイムを更新した者を選考する。

第6回チャレンジ・ザ・オリンピック実施要領

主催	(財)日本自転車競技連盟
後援	(財)日本オリンピック委員会(申請中)
実施期日	平成17年7月10日(日)
実施場所	日本サイクルスポーツセンター・250mトラック
実施内容	(1) 200mタイムトライアル(フライング)男・女 (2) 250mタイムトライアル(スタンディング)男 (3) 500mタイムトライアル(スタンディング)女 (4) 1kmタイムトライアル(スタンディング)男 (5) 3kmタイムトライアル(スタンディング)男・女
スケジュール	受付(サイテル駐車場):9:00~9:30、記録会:11:00~15:00、表彰式:15:00~15:30(以上予定)
参加資格	トラックレーサーにより250m走路を走行できる男女。
申込方法	ハガキ・FAX・E-mailにて住所・氏名・年齢(生年月日)・職業・電話番号・参加種目・自己タイムを明記の上、下記へ申し込む。 日本自転車競技連盟選手強化部 〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館2号館5F FAX: 03-5561-0508 E-mail: yamada-cycling@japan-sports.or.jp
申込締切	平成17年6月22日(水) 連盟必着
その他	(1) 交通費の負担は、下記のとおりとする。 原則各自負担。但し、下記タイムを記録した者には本人最寄り駅からを連盟が負担する。 200m: 11秒000以内(男子) 12秒000以内(女子) 250m: 18秒750以内、500m: 38秒000以内、1km: 1分08秒000以内 3km: 3分35秒000以内(男子) 3分45秒000以内(女子) 4分00秒000以内(女子) (2) 下記タイム更新者は、連盟強化指定選手等に推薦する。 200m: 10秒500以内(男子) 11秒800以内(女子) 250m: 18秒200以内、500m: 37秒500以内、1km: 1分04秒500以内 3km: 3分32秒000以内(男子) 3分40秒000以内(女子) 3分55秒000以内(女子)

第5回全日本実業団トラック記録会



ポイントレースの覇者、朝倉(中央)



ケイリン決勝



チームスプリントの覇者Z-1 MEDALIST



個人追抜のチャンピオン盛

[競技結果]

第5回全日本実業団トラック記録会
(2005/4/17 静岡・日本CSC250mトラック)

男子1kmタイムトライアル

- 1 木村 圭吾 バイタルズ'90 1:09.069
- 2 盛 一大 愛三工業 1:09.912
- 3 在本 直樹 Z-1MEDALIST 1:10.105
- 4 齋藤 和伸 チム・チブ〇 1:10.901
- 5 大村 慶二 チム・ガッタ 1:12.437
- 6 飯田 威文 チム・チブ〇 1:13.154

男子スプリント

- 1 相原 邦雄 LUBRIFEELバイタルズ'90
- 2 河村 雅章 LUBRIFEELバイタルズ'90
- 3 白岩 大助 チム・チブ〇
- 4 小林 信晴 天狗党
- 5 湯原 正行 チムサイクルスイート
- 6 喜納 隆志 名桜大学

男子4km個人追抜競走

- 1 盛 一大 愛三工業 4:57.442
- 2 吉井 功治 LASレーシングチーム 5:02.808
- 3 木村 圭吾 バイタルズ'90 5:04.026
- 4 三木 哲也 LASレーシングチーム 5:09.309
- 5 清水 良行 Z-1MEDALIST 5:14.724
- 6 行成 秀人 Z-1MEDALIST 5:15.722

男子ケイリン

- 1 吉田 康則 Z-1MEDALIST.RC
- 2 河村 雅章 LUBRIFEELバイタルズ'90
- 3 西尾 孝政 テュブ〇
- 4 仲松太一郎 けんしん
- 5 石丸 健次 チム・チブ〇
- 6 大村 慶二 チム・ガッタ

男子ホクトレース

- 1 朝倉 佳弘 バイタルズ'90 43 p
- 2 吉井 功治 AMINOVITAL-LAS 33 p
- 3 三木 哲也 AMINOVITAL-LAS 29 p
- 4 秋田 謙 愛三工業レーシングチーム 29 p
- 5 行成 秀人 Z-1MEDALIST.RC 27 p
- 6 清水 良行 Z-1MEDALIST.RC 21 p

男子チームスプリント

- 1 Z-1MEDAL. 吉田・在本・小西 51.403
- 2 チブ〇A 飯田・齋藤・白岩 51.461
- 3 バイタルズA 沢口・木村・河村 52.535
- 4 天狗党 林・和田・小林 53.174
- 5 テュブ〇 善波・西尾・岡村 52.521
- 6 けんしんB 仲松勝・仲松太・山口 53.653

男子4km団体追抜競走

- 1 LAS 柳沢・吉井・三木 4:55.833
- 2 Z-1 在本・行成・清水・連佛 4:56.112

女子500mタイムトライアル

- 1 佃 咲江 北海学園北見大学 39.268
- 2 大塚 沙織 キャットアイレーシング 41.123
- 3 濱田 真子 ミタハバ和パルイスミ 42.048
- 4 三井 由香 ヲダスハルズギノ 42.404
- 5 三宅 悠里 天狗党 43.220
- 6 中山 朋子 - 43.257

女子3km個人追抜競走

- 1 大塚 沙織 キャットアイレーシング 4:13.317
- 2 佃 咲江 北海学園北見大 4:19.939
- 3 濱田 真子 ミタハバ和パル 4:27.172
- 4 中山 朋子 - 4:35.249
- 5 越田恵美子 テル 4:59.185
- 6 高橋 美保 チム・チブ〇 5:04.169

競技大会結果

チーム名等については略して記載

MTBｼﾞﾝﾊﾟﾝｼﾘｰｽﾞ J1箱館山 XC1/DH1
(2005/4/23-24 滋賀・高島市箱館山)

DH男子17-ト(2km)

1	安達 靖	愛知 Ikuzawa	3:06.988
2	井手川直樹	広島 G Cross H	3:15.632
3	向原 健司	大阪 勿ルバノ	3:17.318
4	丸山由紀夫	愛知 MOM&POPS	3:18.322
5	内嶋 亮	東京 G Cross H	3:18.486
6	鍋島 健一	福岡	3:21.173
7	丸山 弘起	長野 MAXXIS	3:21.187
8	永田 隼也	神奈川 KAMIKAZE	3:21.985
9	柴田 幸治	神奈川 A&F SANT.	3:23.088
10	河合 良紀	三重 かつりナツ	3:24.081

DH女子17-ト(2km)

1	末政 実緒	兵庫 ｶﾞﾐ-	3:44.894
2	渡辺 ｷﾘ	長野 Maxxis	4:00.107
3	猪俣 浩子	神奈川	4:00.523
4	福本 弘佳	兵庫 輪娯ﾄﾞ	4:04.834
5	池田 恭子	東京 ROLL-OUT	4:08.631
6	飯塚 朋子	大阪 MAXXIS	4:10.708
7	富田 敬子	奈良 TECH IN	4:14.596
8	大西 雅美	兵庫 YRS	4:25.472
9	堀田 直子	愛知 MOVE R.	4:29.339
10	楮本百合子	兵庫 KOOUTA	4:36.703

XC 男子17-ト(5.2km)

1	辻浦 圭一	長野 ブリフｽﾄﾝ	2:09:12.978
2	山口 孝徳	長野	2:11:01.233
3	色川 浩樹	茨城 SPECI.	2:11:34.972
4	白石 真悟	大阪 ｼﾞﾝﾊﾞﾝｷﾞ	2:11:58.385
5	山本 和弘	長野 ｷﾝｽ	2:12:20.557
6	鈴木 雷太	長野 ブリフｽﾄﾝ	2:12:53.445
7	竹谷 賢二	千葉 SPECI.	2:14:07.003
8	松本 駿	長野 TREK	2:15:03.842
9	藤本弥之助	山口 SPECI.	2:16:00.914
10	堂城 賢	長野 G.Fisher	2:16:17.318

女子17-ト(36.4km)

1	真下 正美	神奈川 SY-Nak	1:50:39.205
2	片山 梨絵	神奈川 TREK	1:52:54.810
3	中込由香里	長野 SY-Na	1:55:15.292
4	長井 美香	京都 mifune	1:58:30.392
5	深井 薫	大阪 G.Fisher	1:59:17.560
6	矢沢みつみ	山梨	2:04:34.015
7	狩俣けい子	大阪 ｷｰﾑｶﾞ ｷｰﾌﾟﾝ	-1 lap
8	佐藤 百江	東京 club SY-Nak	-2laps
9	信賀 直子	神奈川 OLDNEW	-4laps

第30回ｼﾞﾝﾊﾟﾝｼﾘｰｽﾞ 林(U23 UCI2.2)
(2005/4/26-5/1 伊豆)

第1ﾌｰｼﾞ 4/26(137.9km)

1	SINNER Benoit	FRA	3:24:49
2	SABATINI Fabio	ITA	3:24:49
3	RICCO' Riccardo	ITA	3:24:49
34	田中 聡	JPN	3:24:49
42	島田 真琴	JPN	3:24:49
82	新城 幸也	JPN	3:31:46
99	辻 善光	JPN	3:39:32
106	村出真一朗	JPN	3:40:47
107	松村 光浩	JPN	3:45:22

第2ﾌｰｼﾞ 4/27(107.3km)

1	SESTILI Luigi	ITA	2:36:25
---	---------------	-----	---------

2	SABATINI Fabio	ITA	2:37:05
3	CLARKE Simon	AUS	2:37:05
54	田中 聡	JPN	2:44:15
66	辻 善光	JPN	2:45:51
68	新城 幸也	JPN	2:45:51
70	島田 真琴	JPN	2:45:51
95	松村 光浩	JPN	2:51:51
	村出真一朗	JPN	DNF

第3ﾌｰｼﾞ 4/28(159.0km)

1	KREUZIGER Roman	CZE	4:30:56
2	VELITS Peter	SVK	4:30:58
3	SESTILI Luigi	ITA	4:31:12
31	田中 聡	JPN	4:32:53
37	新城 幸也	JPN	4:33:32
67	島田 真琴	JPN	4:53:53
84	辻 善光	JPN	4:57:58
	松村 光浩	JPN	DNF

第4ﾌｰｼﾞ 4/29(143.0km)

1	MARTIN Tony	GER	3:47:02
2	MUCK Michael	GER	3:47:09
3	STIBAR Zdenec	CZE	3:47:13
32	田中 聡	JPN	3:48:01
49	新城 幸也	JPN	3:49:26
76	島田 真琴	JPN	3:59:13
81	辻 善光	JPN	4:04:34

第5ﾌｰｼﾞ 4/30(147.7km)

1	KUNITSKI Andrei	BLR	3:43:13
2	GASPER Svab	SLO	3:43:13
3	GONZALO RAMIREZ Eduardo	ESP	3:43:22
32	田中 聡	JPN	3:44:03
44	島田 真琴	JPN	3:44:23
47	新城 幸也	JPN	3:44:23
71	辻 善光	JPN	3:53:00

第6ﾌｰｼﾞ 5/1(130.0km)

1	MARTIN Tony	GER	3:03:32
2	SARUI Filipe Gomes	POR	3:03:43
3	GESINK Robert	NED	3:03:54
38	田中 聡	JPN	3:04:41
79	島田 真琴	JPN	3:18:04
83	新城 幸也	JPN	3:19:10
84	辻 善光	JPN	3:19:10

個人総合

1	SESTILI Luigi	ITA	21:06:56
2	KREUZIGER Roman	CZE	21:07:20
3	VELITS Peter	SVK	21:07:22
31	田中 聡	JPN	21:18:42
53	新城 幸也	JPN	21:44:08
72	島田 真琴	JPN	22:06:13
84	辻 善光	JPN	22:40:15

第7回全日本学生選手権ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾋﾞﾙ大会
(2005/4/29 滋賀・立命館大学)

男子(2.1km×20=42km)

1	高島 豪	中央大学	41 p
2	三瀧 光誠	鹿屋体育大学	29 p
3	坂本 裕季	立命館大学	10 p
4	石井 陽	立命館大学	10 p
5	渡辺 将大	中央大学	7 p
6	松田 究	早稲田大学	4 p
7	柴田 祐也	法政大学	3 p
8	遠藤 邦明	法政大学	3 p
9	須崎 歩	法政大学	3 p
10	糸賀 賢司	日本大学	2 p

女子(2.1km×7=14.7km)

1	萩原麻由子	鹿屋体育大学	24:02.6
2	佐藤 美香	名桜大学	24:02.9

3	松永 舞美	法政大学	24:03.4
4	宮崎 杏菜	鹿屋体育大学	24:03.7
5	日暮 千早	鹿屋体育大学	25:05.9

第25回西日本学生選手権自転車競技大会
(2005/5/1 京都・向町競輪場)

男子1kmﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ

1	村松 俊弥	朝日大学	1:10.86
2	中島 和夫	朝日大学	1:10.93
3	中島 康晴	鹿屋体育大学	1:11.36
4	高木 健也	朝日大学	1:11.89
5	向川 訓司	中京大学	1:12.92
6	米田 徹	龍谷大学	1:13.29

男子ｽﾌﾟﾘｯﾄ

1	前田 義和	鹿屋体育大学	
2	後藤 彰仁	朝日大学	
3	若槻 彰隆	朝日大学	
4	田中 茂	関西大学	
5	坂本 拓也	朝日大学	
6	山本 雄介	同志社大学	

男子4km個人追抜競走

1	奥田 賢司	鹿屋体育大学	5:06.40
2	増田 智仁	朝日大学	5:08.10
3	太田 貴明	京都産業大学	5:07.31
4	和田 昌也	朝日大学	5:23.27
5	吉岡 彰仁	龍谷大学	5:12.83
6	河原林 淳	立命館大学	5:13.52

男子ｸﾞﾗﾝﾄﾞ

1	喜納 隆志	名桜大学	
2	金野 亮太	鹿屋体育大学	
3	池本 揚亮	中京大学	
4	高橋 政登	中京大学	
5	鷲原 大直	朝日大学	
6	岡 豊洋	京都産業大学	

男子ﾌﾞﾘｯﾄﾞ(24km)

1	柴田 一樹	朝日大学	49 p
2	村上 純平	鹿屋体育大学	41 p
3	菊池 誠晃	朝日大学	40 p
4	三瀧 光誠	鹿屋体育大学	36 p
5	伊勢 直人	朝日大学	32 p
6	櫻井 透	立命館大学	23 p

男子子ﾊﾞｲﾌﾞﾙ

1	龍谷大学	吉川・米田・吉岡	1.24.82
2	名桜大学	喜納・山入端・上原	1.24.97
3	沖繩国際	松田・仲村・望月	1.28.29
4	北陸大学	花井・茨木・魚住	1.31.29
5	大阪経済	河合・大西・田中	1.32.19

男子4km団体追抜競走

1	朝日大学	増田・中島和・若槻・和田	4:40.61
2	鹿屋体大	三瀧・中島康・村上・片山	4:43.64
3	立命館大	柏原・坂本・石浦・河原林	4:50.78
4	京都産大	山崎・太田・前田・鈴木	4:55.77
5	中京大学	岩本・池本・南・高橋	4:59.67
6	京都大学	山本・田村・富永・河野	5:22.66

女子ｽﾌﾟﾘｯﾄ

1	遠藤 友子	鹿屋体育大学	
2	佐藤 美香	名桜大学	

女子500mﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ

1	遠藤 友子	鹿屋体育大学	38.68
2	佐藤 美香	名桜大学	39.36
3	萩原麻由子	鹿屋体育大学	41.18

女子3km個人追抜競走

1	萩原麻由子	鹿屋体育大学	4:09.77
2	宮崎 杏菜	鹿屋体育大学	4:20.79
3	日暮 千早	鹿屋体育大学	4:32.05

加盟団体事務局の変更について

全国高体連自転車競技専門部

〒406-0031 山梨県 笛吹市 石和市部3
山梨県立石和高等学校 川上様方
TEL: 080-1058-6656 FAX: 055-262-6381

福島県自転車競技連盟

〒961-0851 福島県 白河市 字南登町54
福島県立白河高等学校内 中野目様方
TEL: 0248-24-1116 FAX: 0248-24-2778

茨城県自転車競技連盟

〒308-0115 茨城県筑西市花橋191-2 森尻様方
TEL & FAX: 0296-37-7927

東京都自転車競技連盟

〒110-0015 東京都台東区東上野3-1-14 横尾様方
TEL: 03-3843-4484 FAX: 03-3843-4483

滋賀県自転車競技連盟

〒524-0022 滋賀県守山市守山3-1-3 小西様方
TEL & FAX: 077-581-3318

JCF維持会員のお願い

本連盟は平成7年5月にプロ、アマ統合によりわが国における自転車競技界を代表する団体として発足して以来、自転車競技の普及・振興に係る諸事業を展開してまいりました。今後も自転車競技のさらなる発展を期し、国内大会の充実や国際大会の開催・派遣等活発な事業展開を図る所存であります。しかしながら、これらの事業活動には多額の経費を必要といたしますが、本連盟の運営財源の過半を占める日本自転車振興会の公益補助金が平成17年度は最盛期の55%まで減額されてきております。このような厳しい状況から、連盟事務局は経費節約に努める一方自主財源の増額を図ることが必要となっております。

本連盟では、自主財源確保の一環として従来から維持会員制度に基づき会員各位のご支援を仰いで参りました。

つきましては、平成17年度におきましても、出費ご多端の折誠に恐縮とは存じますが、何卒かかる実情をご理解いただき、自転車競技の健全な普及・振興のためご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

記

維持会費(平成17年度分)

個人会員:年額10,000円を一口とし、一口以上。

団体会員:年額50,000円を一口とし、一口以上。

詳しくはお手数ですが、JCF事務局総務部までお問い合わせください。

TEL: 03-3582-3713

財団法人 日本自転車競技連盟
創立 10 周年記念祝賀会

3月28日、東京・霞が関ビル33階の東海大学校友会館において財団法人日本自転車競技連盟創立10周年記念祝賀会が盛大に催された。

また、祝賀会后、平成17年度新理事会が同会場で開催された。

(財)日本自転車競技連盟事務局
の人事異動について

平成17年3月31日付

常務理事兼事務局長

鈴木 久雄 退職

特命参事

高橋 友彦 退職

総務部 部長

平林 和美 帰任

選手強化部 第一課長

関口 美裕 帰任

平成17年4月1日付

総務部 部長

池田 卓二 新任

選手強化部 次長

横田 恭 新任

平成17年4月30日付

選手強化部 第二課長

三澤 義彦 帰任

連盟の動き (3月下旬~5月中旬)

3月28日 平成16年度第2回評議員会

30日 ACC 総会

4月4日 平成17年度公益補助金交付内定通知伝達式

13日 平成17年度第1回理事会

23日 第1回選手強化委員会

5月7日 トラック強化合宿

於:東京・日本自転車会館3号館会議室

於:マレーシア・クアラルンプール

於:東京・新霞ヶ関ビル灘尾ホール

於:東京・日本自転車会館3号館会議室

於:東京・日本自転車競技連盟会議室

於:福島・泉崎村(~9日)



シクリスムエコー No.118 2005年4・5月号

発行/財団法人 日本自転車競技連盟

発行人/岩楯 昭一

編集人/加藤 昭

編集事務局/財団法人 日本自転車競技連盟 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508

URL <http://www.jcf.or.jp/>

JCF協賛スポンサー

